



～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

史跡田名向原遺跡

旧石器時代学習館オープン！

(愛称「旧石器ハテナ館」)

平成21年4月1日に全国的にも数少ない旧石器時代をテーマとした「史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館」がオープンします。そこで、今回はこの学習館の紹介とあわせ、遺跡公園、学習館における文化財調査・普及員活動について紹介します。

史跡田名向原遺跡旧石器時代学習館って

史跡田名向原遺跡は、平成9年3月に発見され、人類の定住化の歴史を語る重要な遺跡として国の指定史跡になっています。遺跡から確認された約2万年前の後期旧石器時代の住居状遺構は、現在のところわが国最古の建物跡と評価されています。

学習館では、住居状遺構を中心に旧石器時代について、模型や映像などで学ぶことができます。また、石器作りや勾玉作りなど楽しい体験教室も行うことができますので、ぜひ、ご来館ください。



学習館の展示室

目次

- ①・田名向原遺跡代学習館オープン！
- ②・文化財調査・普及員北部班活動報告
・養蚕の繁栄を願う田名望地弁天さま
- ③・相原に今でも残る秋葉講と念仏講
・知られることなく守られてきた不動明王
- ④・新田開拓時代の面影が残る大沼地区の自然遺産めぐり
・文化財保護課からのお知らせ

ぜひご来館
ください！



遺跡公園の案内解説

文化財調査・普及員の考古班、西部班、南部班ほか有志にて、実行委員会を結成し、平成19年11月より第1、第3日曜日に遺跡公園の野外展示物について案内解説を行っています。学習館の開館後は第1から第4日曜日に拡充します。

また、学習館展示室の案内については、4月以降学習指導員に随行しながら、案内解説の実践研修を行っていく予定です。



野外展示の案内・解説

文化財調査・普及員 北部班活動報告（定例会とイベント）

北部班は毎月、定例会を開催し班員の文化財活動報告と情報交換会を行っています。同時に、当番制で文化財に関するイベントも行っています。

H20年12月度は定例会がスタートしたH16年4月から数えて60回目となりました。これを記念して大貫博物館・館長より相模原の歴史と「百米比較室」の西端点発見時のエピソードについての話を聞きました。

その他各月のイベントとしては、10月：鴻巣地区文化財探訪、11月：相模野基線中間点～北端点まで歩く、12月：60回記念講演、1月：ポツダム宣言受諾を放送した多摩送信所跡見学、2月：多摩よこやま道を歩く、3月：七国峠地区文化財探訪を行いました。

北部班はメンバーが18名と多くイベント当番も一年半に一度ということで各担当が準備し充実したイベント開催となっています。



相模野基線・中間点の案内板を見つめる班員

(北部班 光廣)

養蚕の繁栄を願う田名望地弁天さま

望地弁天は、陽原 望地の堺で相模川に突き出ている飛先という地にある坂を下ると20余町歩の水田があり、それを見下ろすように南面の弁天堂に、弁財天が鎮座しています。この弁財天は、元江ノ島の上の宮に安置してありましたが、明治初期の神仏混淆禁止の際、別当壬生大膳というものが仮に藤沢の浄光寺に移したものを高座郡吉岡村濟雲寺前田住職が引き取りました。これを南光寺住職森恵力師が養蚕鎮守のため、明治11年10月に引き取り、望地河原の松林の中に望地殿を建立し、勧進したものです。毎年4月初めの巳の日を縁日としていろいろの催し物もあって参詣の人々は増え、栄えました。しかし、明治の大洪水で望地殿は流出し弁財天は辛くも救出され、南光寺の境内に安置されました。

その後、昭和29年に地元の人々の要望によって現在地に再建遷座されました。この木造弁財天坐像は、市の指定有形文化財（彫刻）に指定されています。意匠

や技術が優れているばかりでなく、養蚕の繁栄のためこの地にもたらされた経緯は郷土の産業史を知る上できわめて重要なものです。

木造望地弁才天坐像・・・寄木造、玉眼嵌入、表面胡粉、下地彩色 高さ45.5センチ台座には「江ノ島本宮岩屋弁財天尊像 明治11年戊寅10月 江ノ島本宮岩屋弁財天遷座用 金井孫左エ門」の墨書があります。現在は毎年1月1日と4月の第1に日曜日に公開されています。



望地弁天堂

田名 5789-2
JR・京王線橋本駅南口またはJR 原当麻駅から「望地キャンプ場入口」行バスで(終点)下車徒歩 15分
(西部班 若林)

～ 相原に今でも残る秋葉講と念仏講 ～

旧市域の講集団とその信仰の展開は、『さがみはらの文化財』第十四集（昭和54年）に、30種類余の講が各地域に存在・活動していると記されていますが、年々減少しています。

今回、相原の森下地区に今も残っている二つの講活動を見学する機会がありましたので、その概略をご紹介します。

①森下の秋葉燈籠の献灯：華蔵院前の森下公会堂横に並ぶ石仏群の中に、秋葉供養塔と秋葉燈籠があります。この燈籠のお燈明は今でも森下86名の講員により順番に献灯されています。（写真）



順番札を持つての献燈

②森下・中村の念仏講：中村は森下地区にかつて5つあった集落の一つで、ここの念仏講の講員は現在6名だそうです。念仏講は年に3回実施し、今回見学したのはその年の初めに行う蓋明け（月並み念仏）でした。念仏を終えた後のお茶会は、楽しみが少なかった昔のご婦人方には、地域情報を得る社交場として、また、息抜きの場として重要であったことでしょう。



鉦に合わせて行う念仏講

（北部班・橋本）

知られることなく守られてきた不動明王

南部班の五十嵐昭さんは、公民館活動（高齢者学級等）で、地域の歴史理解に熱心に取り組んでいます。活動過程で「浅間神社近くに、一般に知られていない石仏が存在するらしい」との情報を得てきました。毎年1月7日に、清掃とお参りをするとのことでした。

密かに守り続けてきた「講中」のみなさんの気持ちも考え、二人だけで参加調査させていただくことにしました。

新年の挨拶の後、垣根を開き沢を登ります。沢の一番奥は20mほどの断崖になっています。石仏はその下に鎮座していました。高さが45cmほどの不動明王座像でした。台座に「天保十二辛丑六月吉日」「原當麻中」と刻まれておりましたが、あまり風化はしていません。以前崖崩れがあり、掘り起こした際無くなったのか、宝剣は途中から欠損しています。干魃・大水等諸々の災難からの守護を願って建立されたようです。

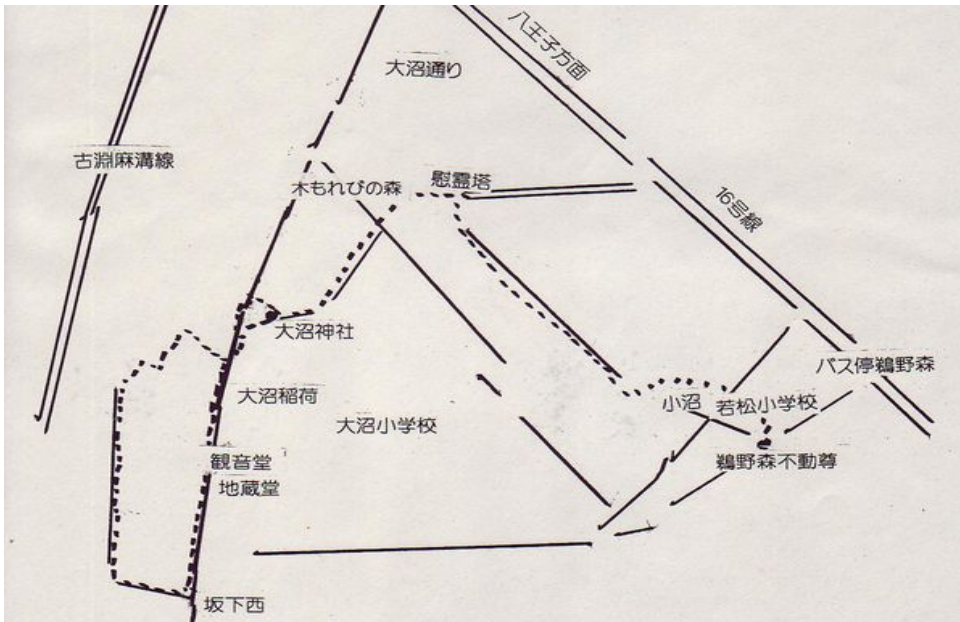
背面の崖からは、湧き水が落ち続け、それを背景に鎮座する不動明王を観ていると別世界に来ているような感じがしました。



今回の取材から、我々の活動は、地域と密接に関わる中で理解を得、情報を得、調査・普及活動を進めていかなければならないと強く感じさせられました。

（南部班・千葉）

新田開拓時代の面影が残る大沼地区の自然遺産めぐり



大沼地区には、大沼新田として開拓された時代からの、景観が数多く残されています。集落の家並みや検地を受けた時から今も耕作されている畑地、こもれびの森として残った薪炭林、更に不思議な伝承を持つ大沼神社など集落の3ヶ所に配置された神仏などから、その時代にタイムスリップした様な気分を味

わうことができます。

珍しい道祖神や地神さんも路傍に立っています。ぜひ会いにきて下さい。

お薦めのころ 山桜とこぶしの咲く季節 3月下旬～4月中旬
雑木林の紅葉 11月下旬～



「コース」 大沼神社→大沼稲荷社→（家並みを通って大沼交差点へ）
→地蔵堂・観音堂→坂下ひがし（道祖神・地神さま）→新田畑地→こもれびの森→慰霊塔
→鷺野森不動尊 約6.5キロ 2.5時間（休憩・見学含む）

大沼神社 相模原市東大沼2-9 JR淵野辺駅より徒歩23分

鷺野森不動尊 相模原市若松3-48 国道16号バス停より徒歩10分（東部班 太田）



文化財保護課からのお知らせ

勝坂遺跡に竪穴住居などを復元

平成21年度に史跡勝坂遺跡内において、縄文時代の竪穴住居2棟と敷石住居跡1棟を復元する予定です。

勝坂遺跡は、勝坂式土器で知られる約4,500年前の集落遺跡で、これまで長年にわたって発掘調査が行われてきました。今回の復元はその発掘調査の成果を基にした復元となります。



勝坂遺跡竪穴住居発掘写真

*文化財調査・普及員有志の実行委員会にて、第1～4日曜に田名向原遺跡定期案内・解説及び古民家園普及事業（第4日曜）を実施しております。その他、文化財調査・普及員の活動や通信紙「さねさし」のバックナンバーは次の手順で閲覧できます。

相模原市ホームページ→観光・文化（一覧を表示）→文化財・史跡→文化財調査・普及員

発行連絡先 相模原市教育委員会 文化財保護課 電話 042-769-8371